

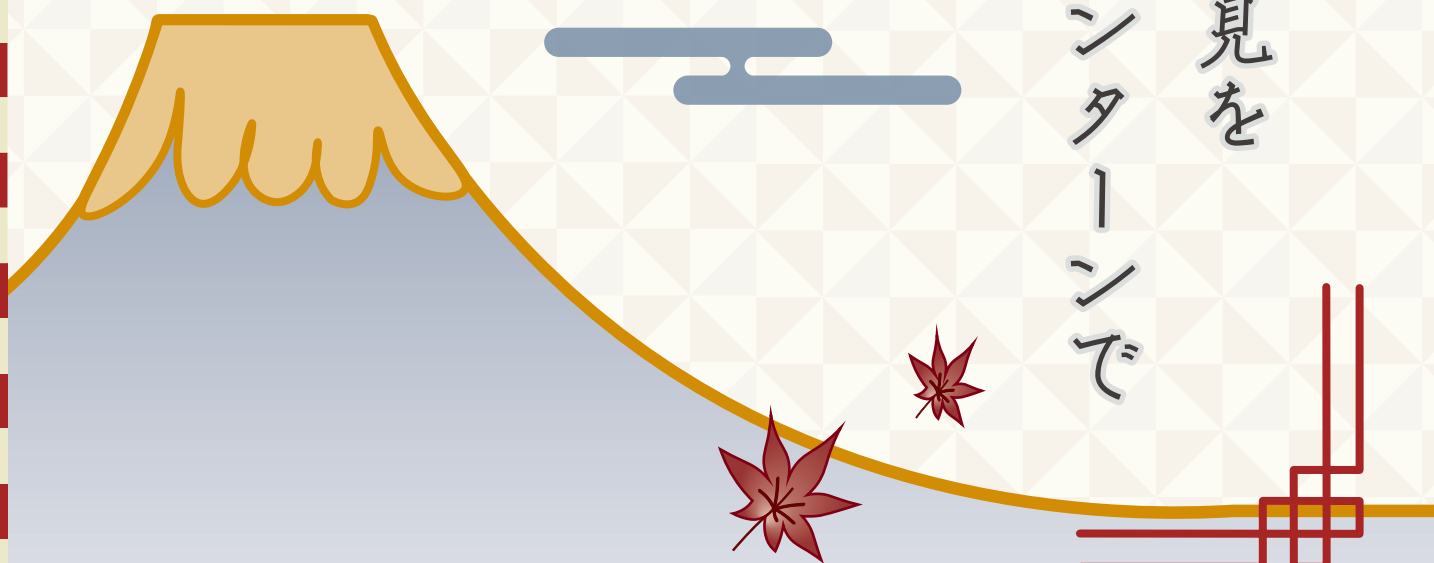


活動報告書

地域でつながる
ワカモノ×NPO
インターンシッププログラム

二〇二一

新しい発見を
NPOインターンで





自ら考え、選ぶことができる力をつけた人材が育つこと

このプログラムは、高校生～大学院生までのワカモノが地域の NPO でインターン活動を行うことで、次世代を担う人材の育成を行うとともに、NPO 団体のマネジメント能力の向上を目指しています。

3つの柱

- ❁ ワカモノが自ら考え、自ら学び、自分の道を選ぶことができる力を身につけること
- ❁ NPO・市民活動団体の組織基盤の強化
- ❁ プログラムを他地域に展開すること

対象：神奈川県内在住の高校生～大学院生（概ね 30 歳未満）
 費用：活動にかかる交通費や食費などは自己負担 ※活動 1 時間あたり 400 円の活動奨励金
 活動先：神奈川県内で活躍する NPO・市民活動団体
 活動時期：2021 年 10 月 24 日（日）～2022 年 2 月 28 日（月）

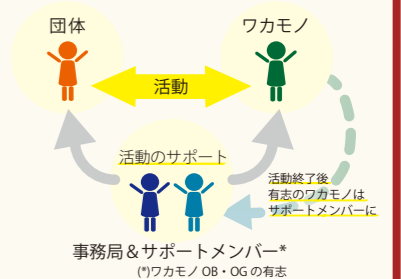
コースについて

この活動では、2つのコースがあります。ワカモノコースでは最低 50 時間以上、高校生コースでは最低 40 時間以上、活動する必要があります。



運営体制

事務局とサポートメンバー（有志の OB・OG）がプログラムの企画・運営を行い、活動をサポートします。



面談でのマッチング

参加してくれたワカモノが、どのような素質があり、何に興味関心があり、どのような活動に向いているのか、事務局と個別面談を通して活動する団体を決めます。

成果発表会の企画運営

活動先の団体や事務局、外部の人を招いて、ワカモノが活動をする中で得たこと・成長したことを発表します。企画から当日の運営までワカモノが主体となって行います。

- 一 度挑戦すること
- 歩 き出してみることに
- 前 を向くことに
- 進 み続けることに

目次

プログラム概要	2
プログラムの流れ	3-4
受入団体紹介	5-6
ワカモノページ	7-14
合宿 in ごんばち	15-16
成果発表会	17-18
アンケート	19-20
サポメン紹介	21
おわりに	22
過去のプログラム	23

これらはすべて大切なこと
 これからをつくる未来のワカモノが
 約半年間、一歩前進し続けたその軌跡を
 ご覧ください！

NPOとは？

NPOとは、「Non-Profit-Organization」の略称です。日本語に訳すと「民間の非営利組織」となります。一般的な株式会社などの組織とは異なり、活動を通して得る収益を、主に社会課題の解決を目的とする事業に充てる組織です。近年社会のニーズは多様化し、それに応えるために 20 もの分野（文化、環境、教育、まちづくり、国際、福祉など）を設定して活動をしています。NPO 法に基づいて法人格の認証を受けた NPO 法人は日本全国に 5 万以上存在しています。この数は全国のコンビニエンスストアの数に匹敵し、郵便局の約 2 倍、交番の約 8 倍にあたります。最近では NPO が「協働」という形で企業、行政機関、学校等と連携した活動を実施する事例が増えています。地域と大きく関わりを持つ NPO には、災害時にそれぞれの分野で力を発揮するボランティアをコーディネーションする役割も求められています。このように NPO は皆さんの生活のすぐ隣で活動を行っています。

プログラムの流れ

ワカモノはエントリーした後、事務局との面談を経て受入団体を決定します。約5ヶ月間（10月24日～2月28日）インターン生として活動します。ワカモノ定例会はインターン活動の目標設定や情報共有などの場として月1回、オンラインで開催しました。

各プログラムの企画運営は事務局とサポートメンバーで行っており、今年度は「価値観」をテーマに運営しました。

面談

10月上旬に、ワカモノと事務局で個別面談を行いました。ワカモノの興味関心や将来の夢などをじっくり聞いた上で、ワカモノに合った活動先を決めていきます。今年は8人のワカモノが参加し、全員が面談を通して受入団体を決定しました。

10月

10月

10/23

11/21

12/12

12/27.28

1/23

2/12

2/20

2月

ワカモノ定例会①

NPO 講座を開き、NPO の役割や活動する環境などを伝えました。その後、事前に記入したワークシートを使用し、プレゼンテーションを実施しました。そこでは他の参加者に向けて自身のインターン活動先の団体名・活動分野・活動目的・活動内容を紹介し、お互いの理解を深めました。



ワカモノ定例会③

2022 年に入ってから初のワカモノの顔合わせの場となりました。「仕事とボランティア」をテーマにゲストトークを行いました。ワカモノや事務局など参加者の間で、自身が感じたことや思ったことを共有し合い、新しい考えを生むことに繋がりました。その後は成果発表会に向けた話し合いを行いました。



成果発表会

昨年に続き、オンライン配信で実施し、ワカモノが約4ヶ月間の自身の活動について発表を行いました。オンラインでのやり取りがメインだったものの、ワカモノがお互いを尊重し合う関係を築いていたことで、成果発表会はとても有意義なものとなりました。最後には活動先の方から暖かいメッセージもありました。



10月23日、2021年度のワカモノ8人とサポートメンバー、事務局が集まってオリエンテーションを開催しました。まずは顔合わせの意味を込めて自己紹介をしました。その後、インターン活動にあたっての目標設定を行うワークや、インターンの心構えなどをお伝えしました。

オリエンテーション



月末に迫った合宿の企画を主に話し合いました。合宿の開催概要を聞いた後、合宿中に行うディベート大会のテーマやレクリエーションの内容をワカモノで話し合いました。後日、定例会に参加できなかったワカモノとも話し合い、内容を決定しました。

ワカモノ定例会②



12月末、藤沢市の北部にある「古民家ごんばち」にて、2日間の合宿を実施しました。築100年になる古民家では、非日常感を十分に味わうことができました。いつもとは違う場所での活動は、有意義な時間を過ごすことに繋がりました。

初開催

合宿



最後のワカモノ定例会では、活動の振り返りを実施しました。どんな活動をしてきたか・活動を通して学んだことや得たこと・これからやりたいことややりたい自分についてプレゼンテーションを行いました。その後、成果発表会に向けた最後の打ち合わせもしました。

ワカモノ定例会④

受入団体紹介

今年度のワカモノの活動先を紹介していきます。今年度は8つのNPO・市民活動団体にワカモノを受け入れていただきました。このページでは、ワカモノを受け入れてくださったそれぞれの受入担当者のお写真と、団体の活動内容を紹介しています。



一般社団法人 ソーシャルコーディネートかながわ

担当者：葉石 真澄さん

様々な組織や人、社会的資源をつなぐ

神奈川県内でNPO支援活動に携わる有志が集り立ち上げた団体です。市民・NPO・企業・行政機関など、さまざまな人や組織、社会資源をつなぐ中間支援活動を行っています。地域活動やNPO活動、社会貢献に関する相談対応、研修・学習会の開催などを通じて、地域の様々な主体が協働・連携して、地域課題を解決する動きを創りだします。



NPO 法人 ドリームエナジープロジェクト

担当者：内海 智子さん

障がいのある若者たちの「表現」する力を育て、発表の場をつくる

ダウン症や自閉症など知的ハンディのある若者たちの「学びと体験の場」として、歌やダンス、美術、コミュニケーションなどのレッスンをしています。また、「命」や「共に生きる」をテーマにしたオリジナルの演劇を開催。彼らの個性を活かした「表現」を通して、より深く観る人の心に届くようにと心掛けています。



NPO 法人 横浜市民アクト

担当者：北川 有紀さん

いつものまちで新たな一歩

2006年から「横浜市社会教育コーナー」、2016年から横浜市保土ヶ谷区にある「ほどがや市民活動センター アワーズ」の管理運営を行っています。アワーズとは、横浜市保土ヶ谷区の市民活動・生涯学習を支援する施設で、情報発信や場の提供、おそうじセンターや、パソコン講座やイベントの開催、情報誌 OURS の発行など様々な事業があります。



おととき♪

担当者：佐久間 恭子さん

「おと」によるひと「とき」の安らぎを届ける

地域と音大生（卒業生も含む）をつなぐことを通じて、地域で音大生や若手演奏家が活躍する社会を目指しています。具体的には、自主公演の企画運営、学童や保育園などでの訪問演奏、地域イベントへの参加などを行っています。イベントの実施に合わせ、集まれるメンバーが協力して行っています。藤沢を中心に各地で活動中です。



新林公園みどりの会

担当者：山班のみなさん

がんばらずに自分のできることをやる

新林公園は面積約16,200㎡もあり、ハイキングもゆっくりできる公園です。来園者の皆様に気持ち良く過ごして頂けるよう、そして新林の自然をより豊かにし次世代に引き継いでいけるよう、市民感覚を生かしながら公園の整備等を行っています。活動を通じて社会に貢献ができ、健康作りに役立ち、地域の皆さんとの出会いもある活動です。



国際協力 NGO Act for Child

担当者：伊吾田 善行さん

すべての子ども達に教育の機会を

世界中の子ども達が貧困の連鎖から抜け出すための課題を解決、そして平和を創造する人材の育成を目的に活動しています。主にミャンマーの少数民族の子ども達への教育支援やタイ山岳少数民族やストリートチルドレン等が製作したフェアトレード品の国内での販売、相手を尊重できる真のグローバル人材の育成事業などを行っています。



NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ

担当者：大澤 英昭さん

フットサルを中心とした地域密着型スポーツクラブ

藤沢市を拠点に、「フットサル」を中心とした地域密着型スポーツクラブです。青少年の健全育成、地域の方の健康増進、生涯スポーツの普及を目的とした活動を行っています。関東フットサルリーグに参戦しているTOPチームを中心に、子どもから大人まで270名ほどの方が所属し、フットサルを楽しんでいるアットホームな雰囲気の団体です。



認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構

担当者：関野 豪星さん

「つなぐ・支える・うごく」NPOを支援するNPO

私たちは「NPO（非営利組織）を支援するNPO」として、市民活動を支援することを通じて、まちを盛り上げるための活動をしています！また、まちづくりには、NPOだけでなく様々な組織が連携することが大事です。推進機構ではまちの活性化事業も進めているほか、NPO・行政・企業・学校等との連携・協働の支援も行っています。



文化：地域文化の保全・スポーツイベント等



環境：里山保全、美化活動等



国際：国際協力、外国籍の方への支援等



子ども：保育、学習サポート等



福祉：高齢者・障がい者・健康へのサポート等



まちづくり：地域清掃・イベント等

次ページからは今年度のプログラムに参加した **ワカモノ紹介** です！



今泉 友里 いまいずみ ゆり

活動団体：(一社) ソーシャルコーディネートかながわ
活動分野：まちづくり
学校：湘南学園高等学校 2 年生
もし宝くじが当たったら：ヨーロッパでファッションや芸術を
何ヶ月もかけて勉強したい！！

大谷 脩太郎 おおたに しゅうたろう

活動団体：(N) ドリームエナジープロジェクト
活動分野：福祉
学校：N/S 高等学校 2 年生
もし宝くじが当たったら：全国のりんごの食べ比べをしたい！！



これからの進路に向けて

私がインターンを始めたきっかけは、学校でこのインターンシッププログラムのチラシを見たことです。今までボランティア経験がなく受験生になる前に何かしたいと思っていたため参加しました。活動中に心がけていたことは、笑顔を決やさないこと、活動場所が遠かったため一回一回を大切にすることです。



貴重な活動を充実させるために

活動内容は青葉ミライプロジェクトで地域活性化のためのプロジェクトで企画と広報活動を中心に活動していました。活動中に苦労したことは、プログラムの人と距離を縮め、より深く関わることです。そのため活動前に団体のことや現在行っているプロジェクトについて調べ、実際に団体の方とお話できるときに、会話に参加しやすくするよう努力しました。活動後はボランティアへの印象が変わりました。「ボランティアってすごいこと」という印象でしたが、日常的なことでも陰ながら支援している人がいるということに参加して知り、地域活動の基盤を作っているのがボランティアだと分かって、身近に感じるようになりました。



これからも繋がっていく

大学生になったらコロナ禍でもできることを積極的に取り組みたいと思います。また、海外のボランティアにも参加してみたいので、行く機会があれば文化や言語に触れながら活動したいです。このプログラムで 8 人のワカモノと仲良くなれたこと然り、今まで経験のないことでたくさんの人と関わったので、ここでの時間や人脈などを無駄にしたいです。



未知の旅へ

このインターンを知ったとき、自分の知らない世界に飛び込める！自分の新たな一面に気づいて将来に生かせるかもしれない！と思い、不安よりもワクワクした気持ちで参加しました。また、活動を通して地元である藤沢市を自分の力でもっと良く変えたいという想いがあり、応募に至りました。SNS 媒体や画像、動画制作などのアウトプットが得意なので活かしたいという思いを持っていました。



笑顔は最強のアイテム

ドリームエナジープロジェクトでスクールと呼ばれる、絵画や音楽の教室の活動をメインに行いました。スクールに来ている方の横で、その方が参加しやすい方法で交流できるようにサポートしました。例えば、ある参加者は踊るのが好きだけどレッスン受講に慣れない様子でしたが、横でリズムをとると、リズムをつかめ自然と参加してくれました。活動中に心掛けていたことは、「笑顔」でいることです。笑顔は誰とでもコミュニケーションが取れる最強のアイテムだと思うので意識していました。一日の初めに鏡の前で笑顔を作り、「今日も一日笑顔で頑張るぞ」と気合を入れています。



一人一人の個性を尊重する

活動を通して大人の方から子どもまでいろんな人と関わり、人によって適切なコミュニケーション方法があることに気づきました。将来は、テレビ業界やビデオクリエイターを目指しており、人にモノを伝える仕事がしたいと考えています。将来の仕事では、今回の活動で感じた「十人十色の重要性」を活かして、個々の良さを発信したいです。





工藤 佳奈 くどう かな

活動団体：(N) 横浜市民アクト
活動分野：まちづくり
学校：南高等学校 2年生
もし宝くじが当たったら：アメリカのロサンゼルスや台湾に行きたい！！

塩崎 雄太 しおざき ゆうた

活動団体：おととき♪
活動分野：文化
学校：神奈川大学 3年生
もし宝くじが当たったら：無人島に別荘を立てて配信スペースや機材を揃える！



視野を広げたい

来年度高校3年生になり、進路を考える時期だったので視野を広げたいと思っていました。何かしたいという思いの中でいろいろ調べていたところ、このインターンを見つけ、自分は大学や将来を通して何を学んでいきたいのかを見つけるのに最適なプログラムであると感じ、参加しました。

自分から挨拶を

主な活動内容は、アワーズで施設運営やごみ拾いイベントの参加、交流会の企画、スマホ講座のお手伝いです。ゴミ拾いではちょうどクリスマスシーズンということもあり、サンタ帽をかぶって行いました。

シャイな性格なので活動を始めた頃は施設に来てくれた方になかなか挨拶ができず、団体の方から指摘を受けました。しかし、それをきっかけに大きな声でなくても自分から挨拶することを心掛け、徐々にできるようになりました。活動の後半では、最初の頃に比べて初対面の方にもあいさつができるようになりました。

繋がりをこれからも

これまでは地域活動に参加したことが全くなかったのですが、遠い存在に感じていました。しかし実際に活動してみて、地域に密着していると感じ、すごく近い存在だと気づきました。また、団体活動のごみ拾いに参加したことで、地域活動に参加するということへのハードルも下がりました。また、交流会で作ったポスターをほめていただいたことで自信につながりました。今後は活動を通して高められたコミュニケーション能力を活かして、いろいろな人と話していきたいです。あとは、このインターンで出会ったアワーズの皆さんとのつながりを今後も続けたいと思っています。



好きなことを活かす

大学の友人の紹介がきっかけでこのプログラムを知りました。もともとイラストを描くことが好きで、ポスターやパンフレット作りなど、好きなことを生かして地域貢献・社会貢献ができるところが面白そう、やってみたくて思い飛び込みました。また、人脈を広げて、「この活動を通して楽しみたい！」という気持ちもあり参加を決めました。

伝え方は技術

おととき♪では、クリスマスコンサートのポスターと、団体の紹介パンフレットの制作を行いました。活動中に心がけたことは団体の求めるイメージとは何か、そしてそれに伝えられているのかについてです。初めてのポスターを作った時、かなり手厳しい指摘を受けました。そのため頭の中で指摘やアドバイスを咀嚼し、自分の持つ力の範囲内でどのように反映させるか考えて取り組みました。苦手だと思っていたことを褒められて嬉しかったし、純粋に楽しかったです。今まで避けていたことも活動の中で行うようにしたことで、自分の表現の幅が広がったと感じます。また、身近にある広告を分析しながら見るようになりました。大学のポスターなどを見ると、色の配色や割合など、フレームにはめて作られているのすごく面白いです。

応援される人から応援する人へ

いろいろな人と関わって楽しかったですし、今後は僕もNPOみたいなことをしてみたいと思いました。僕自身おしゃべりだし、誰かを励ますのが得意なので、SNSでイラストを投稿しつつ、配信しながら一歩踏み出せない人の後押しをしたいです。活動でよくしてもらったので、今度は周りの人に還元できたらいいと思います。



諏訪 帆恭 すわ ほとか

活動団体：新林公園みどりの会
 活動分野：環境
 学校：湘南学園高等学校 2年生
 もし宝くじが当たったら：YouTube で大掛かりな企画をしてバズりたい！

高橋 果鈴 たかはし かりん

活動団体：国際協力 NGO Act for Child
 活動分野：国際
 学校：湘南学園高等学校 2年生
 もし宝くじが当たったら：貯金と募金をしたい！



僕にしかできないことを

もともと NPO やボランティアに関心を抱いていたため、高校生のうちに経験しておきたいと思っていました。そんな時、学校にこのインターンのポスターが張り出されていて、社会に出る練習にもなるし、高校生があまりやらないような何か大きいことをしてみたいと思い参加しました。

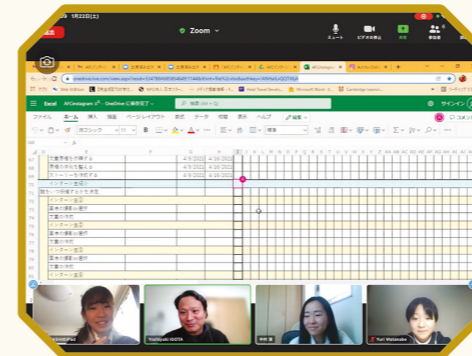
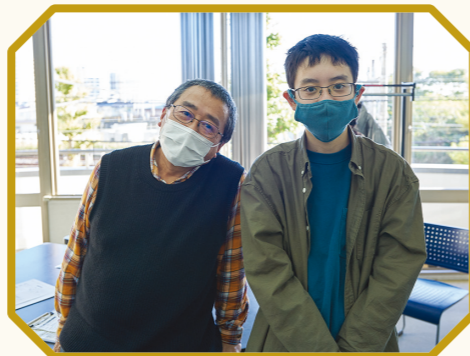
大人としての一步

新林公園みどりの会で、木の階段の補修や整備、切り倒した木の回収と運搬、落ち葉拾い、公園の見回りを行いました。活動中に心がけていたことは、遅刻しないようにすることです。最初は何度か遅刻をしてしまい、団体の方に「学校とは違う」と指摘を受けたことでより一人の大人になれた気がします。活動中に苦労したことは、集中することです。小さい頃から集中するのが苦手で、今回の活動中も活動に関係ないことを考えてしまうことがありました。これでは活動の意味がなくなってしまうと思い、自分は何を目的として活動するのかを意識するようにしました。最初はそれでも難しかったですが、徐々に活動が楽しくなってきた、後半は集中できるようになっていきました。

経験をこれからに活かす

活動を終えて、もっと自主的に行動すればよかったと思いました。受け身で活動していたと感じたので、もっと自分から積極的に行動すればもっと得られるものがあつたと感じます。今はその反省点から、何かするとき行動の目的を考えるよう意識しています。

今後は海外留学をして生態系の保全について学びたいです。あとは、遅刻や忘れ物をしないなど、社会での人間の在り方について高校生のうちに学ぶことができたので、今後アルバイトや社会に出た時に活かしたいです。



「やってみよう」から始まった出会い

私がインターンを始めたきっかけは、高校の先生からの紹介に興味を持ったことです。活動内容は、Act for Child(以下 AFC) で、インスタグラムを中心に団体活動を宣伝して、また活動チームに分かれて話し合い、ホームページ作成の会議にも参加しました。

未知の領域を知っていく

活動中に心がけていたことは、高校生だからこそそのアイデアを考え、多少馬鹿らしくても発言するようにしました。また、私のようにインターンとして活動する方は大学生の方が多く、お話をさせていただけるのはいい経験になりました。AFC の活動ではパソコンを使う場面が多かったため、機械音痴だった私は苦労しました。AFC では予定を立てるとき様々な場面でエクセルを使い、活動メンバーも使い方に慣れていたので、毎週行われるチーム会議の際、活動メンバーにたくさん質問をし、乗り越えていきました。会議では、色や配置、文字数やハッシュタグなど細かいところまで話し合い、多くの労力をかけ作業を進めました。これらの活動を通して、インターネットを有効活用する方法を学びました。

経験したからこそ学べたこと

今後は医学部を目指して受験勉強を頑張りたいです。そして将来的には尊敬する医師の中村哲氏のような活動がしたいです。医学を武器に様々な国で学校建設などの活動をし、その傍らで出会った医療を必要とする人を治療し、現地の方々と共に健康問題に取り組みたいと思っています。



山本 千晴 やまもと ちはる

活動団体：(N) アズヴェール藤沢スポーツクラブ
 活動分野：文化（スポーツ）
 学校：東海大学 3 年生
 もし宝くじが当たったら：藤沢で土地を買って大きな家に住みたい！

吉川 聡 よしかわ さとし

活動団体：(認 N) 藤沢市民活動推進機構
 活動分野：まちづくり
 学校：慶應義塾大学 4 年生
 もし宝くじが当たったら：握手券に全額突っ込みたい！



生まれ育った藤沢のために

私がインターンを初めたきっかけは、生まれ育った藤沢に貢献できる活動がしたいと思ったことです。中高のこれまでの授業の中で、地域活動の大切さを学ぶ機会は多くありましたが、実際に活動をしたことはありませんでした。そして、大学 3 年生の時にこのインターンの存在を知り、ぜひ自分の肌で感じてみたいと考えて参加を決めました。

違う視点を持つてみる

活動先はアズヴェール藤沢スポーツクラブで、スクールに通う子どもの写真撮影やラジオ出演、イベントのお手伝い、Instagram に活動風景の投稿などを行っていました。活動中は、代表の言葉を忠実に Instagram に載せたいと思い、こまめにメモをとることを心がけました。また、スクールの練習風景を撮影中に代表から「子どもの表情に注目して」と伝えられました。最初はゴールを決めた子やボールを持っている子ばかりを撮影していましたが、「子どもの成長する姿を撮ろう」と決めてから、準備運動やチームで作戦会議をする姿、コーチの話を真剣に聞く姿などに目が行くようになりました。これは「毎回違う視点でスクールを見る」という目標を立てたことが生きたと思います。

新たな自分

今までは保守的な性格でしたが、未知の領域に真摯に向き合い、魅力を見つけ、自らの言葉で発信できる自分の意外な一面に気づきました。活動を通して団体や自身の活動を発信する手段や方法を学ぶことができました。そのスキルを活かし今後も魅力を発信する活動をしたいと考えています。現在、介護施設でアルバイトをしているため、そこで感じた介護現場のリアルや意外な一面を発信してみたいと考えています。



卒論を通して

以前から藤沢市民活動推進機構でお世話になっていました。元々中間支援組織に興味があり、卒業論文を書くことをきっかけに、機構での実践活動を通じて中間支援組織研究をしたいと思い参加しました。インターンが始まる前から NPO 向けのアンケートの分析を行いたいと思っていたので、活動の中で携わることができました。

何気ない作業も学びにして

活動内容は、藤沢市民活動推進機構で市民活動団体向けのアンケート調査の回答の打ち込みと分析、図表作成をメインで行いました。活動中は、雑務的な仕事内容を雑務と思うのではなく、学びの場と考えて行うことを心がけました。多くが打ち込み作業でしたが、ただセルに打ち込むのではなく、どのような団体がいるのか、それらの団体はどういった意識で活動を行っているのかを考えながら活動しました。スキル面では、効率的に作業する方法を調べながらやることを心がけました。

経験したからこそ学べたこと

活動中に苦労したことは、中間支援組織の課題などを分析して、卒論のネタにつなげることです。自分の作業が多く作業に集中しすぎると、それで 1 日が終わる日もありました。そのため昼食時や、休憩時間に職員と話すことも大切にして、どのような想いで働かれているのか聞き、組織運営の難しさを知りました。数値や論文だけでなく、実際に経験したからこそ学べたことがありました。活動を通して、ご高齢の人に職員が理解するまで繰り返し説明し、藤沢市民活動推進センターに来た人に対応しながら事務作業をしている姿を目にして、言うのは簡単だけどやるのは難しいということを実感しました。将来は、企業と NPO の協働のプロジェクトをしてみたいのと今後もインターン先のサポーターは続けたいです。

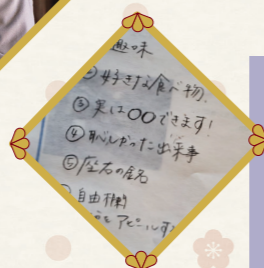
合宿 in ごんばち

年末に藤沢市北部にある「古民家ごんばち（藤沢市打戻）」にて1泊2日の合宿を開催しました。本プログラムは今年度で8年目となりますが、合宿は初めての試みとなりました。対面で会う機会が少ないワカモノ同士の親睦を深め、成果発表会に向け、チームの基盤を作るために古民家という非日常感あふれる環境で、感染症対策を行って上で様々な活動を行いました。



1 ディベート

「SDGs の今のゴールが達成されないまま新しいゴールを作ることに賛成か反対か」というテーマで行いました。制限時間内に情報を集め、互いに意見をぶつけ合いました。ディベートを通して説得力のある意見の伝え方を考えることができました。



2 ワカモノ time ~ワカモノプレゼン大会~

ワカモノが企画したワカモノ time ではプレゼン大会を実施しました。自身の趣味や座右の銘などを記入したカードを他の参加者と交換し、受け取ったカードに書かれたことを紹介し、誰のカードか当てるゲームです。他の参加者の情報や考え方を知ることができ、有意義な時間を過ごしました。



3 泊まり



湘南台駅付近にて食事と入浴を済ませた後、ふたたび古民家ごんばちへとバスで戻り、就寝の支度をしました。ごんばちでは寝袋を使用しての睡眠をとり、いつもとは異なる雰囲気を感じることができました。

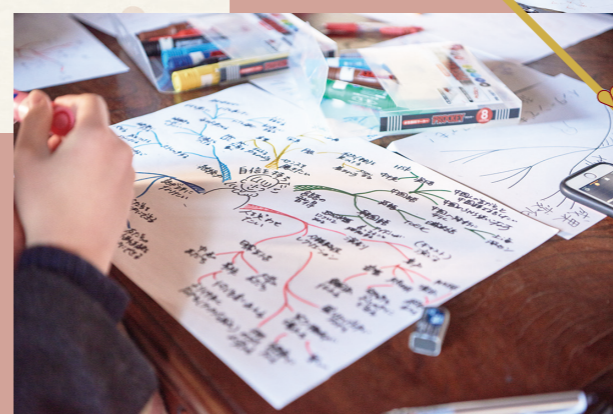
4 早朝さんぽ

2日目の朝に、宿泊したメンバーでごんばち付近へ散歩に出かけました。ごんばちの周辺は農地が広がっていて、朝ののどかな空気の中を歩くことで、気分をリフレッシュすることができました。



5 マインドマップ

普段の自分の思考や言葉を可視化して頭の中を整理しました。動機・やりたいこと・成果と変化について、木の枝が分かれるように描き、深掘りをしていきました。人によって描き方が様々で、「自分や他のワカモノの理解が深まった」との声がありました。



6 成果発表会企画



昼食を済ませた後は、成果発表会の企画を行いました。テーマや開催形式を話し合い、どんな成果発表会を作りあげたいか、ワカモノがリーダーシップを発揮して意見を出し合いました。

成果発表会

インターン活動の集大成となる成果発表会は、合宿会場でもあった「古民家ごんばち」で開催しました。企画から当日の運営まで、ワカモノが主体となって作り上げた成果発表会の様子を項目ごとに紹介していきます。

企画



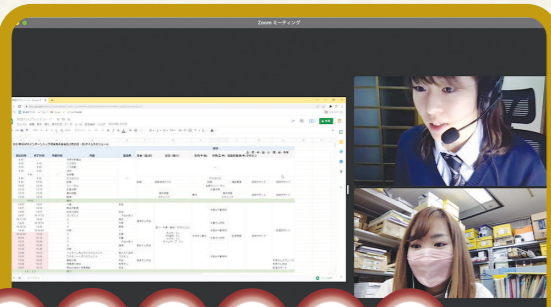
12月に実施した合宿で、企画を立て始め、その後の定例会でも話し合いました。どんな発表会にしたいか、どんな準備が必要かなどアイデアを出し合いました。

リハーサル



本番の直前に、最終確認としてリハーサルを行いました。実際に進行をして気になったことは積極的に共有し、本番に向けて最終調整をしました。

台本・進行表



成果発表会の進行に欠かせないタイムスケジュールや司会の台本は、何度も話し合いをしながら作成しました。

会場準備



会場となる古民家ごんばちに到着してすぐに準備が始まりました。会場のレイアウトを整え、スムーズに進行できるように支度を整えました。スライド資料の表示位置確認、カメラやパソコン、スピーカー、マイクなどの機材の動作確認を行いながら、ワカモノとサポートメンバー、事務局が連携して作業を進めていきました。

動画作成



成果発表会の冒頭で流すオープニング動画を作成しました。動画班を中心に構成やテロップなどを考案し、動画では発表会に向けた意気込みを伝えました。

広報



ポスターをパンフレットを作成し、広報活動を行いました。掲載する内容や掲載方法、役割分担などを皆で考案しました。ツイッターやインスタグラムなどのSNSでも広報を行い、成果発表会への参加を呼びかけました。



当日

成果発表会当日の朝から、事前に決めた会場レイアウトに従ってセッティングを行いました。機材の動作、配線、待機場所、発表時の声の大きさ、光の強弱などを細かく確認していきました。こういった準備作業はワカモノ、サポートメンバー、事務局が役割分担をして進め、発表本番に備えました。タイムスケジュール通りに進行するために、発表の残り時間を伝えるカンペも作成しました。発表中、会場を映すカメラが停止したものの、臨機応変に対応し、進行が止まらないように努めました。司会はワカモノの塩崎さんと諏訪さんが務め、2人のユーモアある進行で、時折会場では笑いが起きました。和やかな雰囲気の中で、ワカモノ

ノはスライド資料を使用して1人10分程度で発表を行いました。自身がインターン期間で学んだことを、お世話になった団体の方に直接発表する場だけあって、緊張している様子でした。それでも約5ヶ月間の経験と成果を懸命に伝えるワカモノの成長した姿がそこにはありました。最後には団体の方からの励ましやお褒めの言葉をいただくことができました。発表会の終了後、事務局からワカモノへ修了証を授与しました。ワカモノが1人ずつ、インターン活動を終えた感想を話し、自身の成長を振り返る時間となりました。

まとめ

成果発表会では、参加したワカモノそれぞれがリーダーシップを発揮していました。発表用のパワーポイント資料や話す内容は、ワカモノがNPOの方などの協力を得て作り上げました。インターン活動の期間が短く、オンライン中心の話し合いが多く、発表の準備期間も決して長くはありませんでした。それでも成果発表会では参加したワカモノ、サポートメンバー、事務局が見事に協力しました。

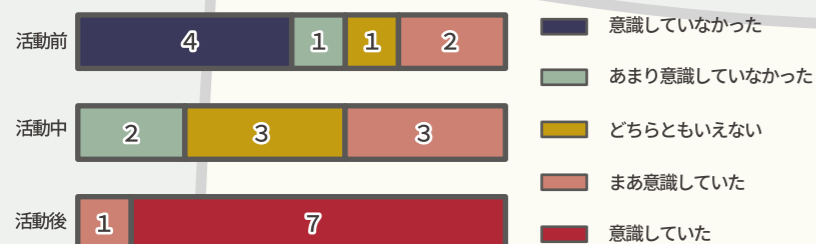


アンケート

プログラムの改善とワカモノの成長を確認するため、活動終了後にワカモノ（8名）と受入団体（8団体）それぞれにアンケートを実施しました。結果の一部をまとめたものが以下となります。 ※内容は変えず、読みやすいように一部加筆・修正しています。

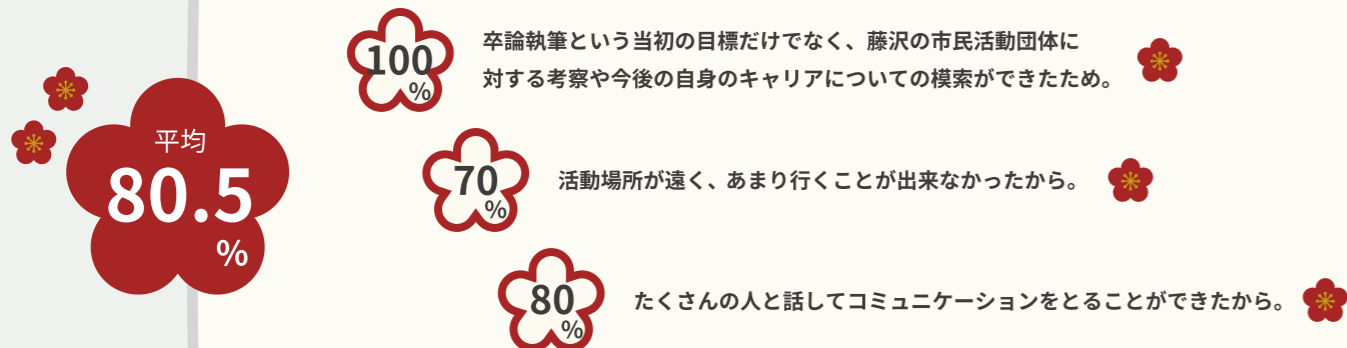
Q: ワカモノへの質問 (n=8) Q: 受入担当者への質問 (n=8)

Q 団体が取り組む課題について、どのくらい意識していましたか？



○ 卒論を書く上で問題意識は自分なりに持っていたが、活動の中で現場の思いに触れることでさらに意識が深まったように思います。 ○ 最初は自分が何をしていたかわからなかったが、活動が終わるにつれ活動の目的などを理解できたため。 ○ (携わったイベントが) 地域を盛り上げるものであり、団体さんと協力するものであったので、この点は終始意識していました。

Q 当初立てたインターン活動の目標は何%達成できましたか？



Q 活動を通して、あなたが気付いた「社会問題」「地域課題」はどんなことですか？

- 人手不足 (地域で様々なイベントが開かれているが、実際に携わっている人は固定化していて、新しい参加者や若い人がなかなか集まらない。)
- ネットが普及していても活用の仕方が難しい。 ○ 世界にはいろいろな人がいて、その人ごとに異なる世界があって、それをお互い理解していく必要がある。僕はそれが出来る寛容な人になりたい。 ○ 地域住民同士の関わりがまだまだ足りないこと。高齢者の方の居場所づくりが今後もっと重要になること。

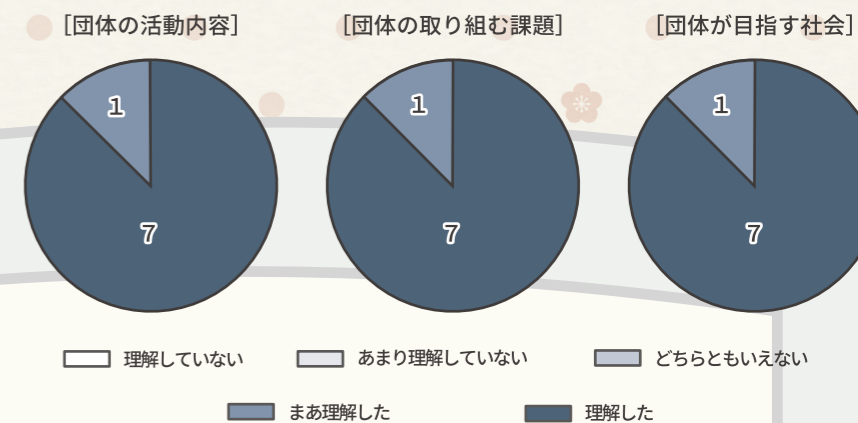
Q 本プログラムを他のワカモノに勧めたいですか？

強く勧めたい：75% 勧めたい：25%

○ 実習先の団体の一員となって働き方を体感することができるだけでなく、ワカモノやサポメンととの交流があり、様々な経験をすることができた。○ 活動を通して本当にさまざまな考えを学べたり今後の人生に役立つものを学べるから。 ○ 地域のため、あるいは学生生活以外の何かしら活動をしたと思っているが、具体的に何をしたら良いかわからないという人に勧めたいです。個人々の要望に合わせて、事務局の方々にコーディネートしてもらえるので、新しい価値観に出会えると思います。

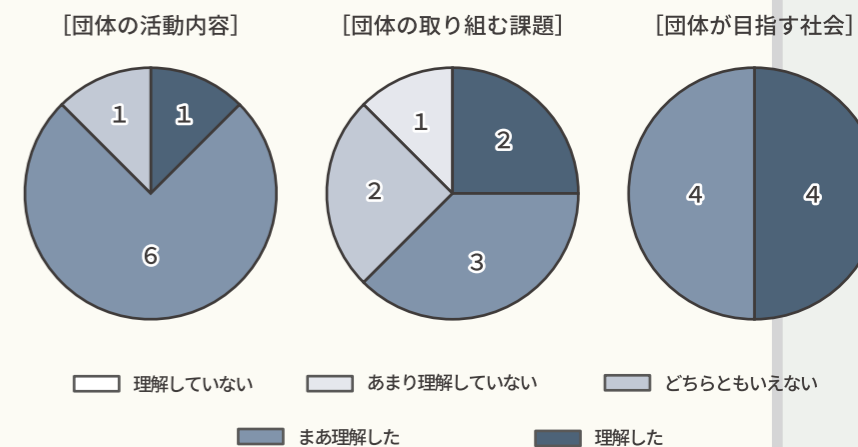
Q 活動を終えて、各項目についてあなたはどのくらい理解したと思いますか？

○ 団体さんのパンフレットを作成する際にその点の意思疎通を頻繁に行ったので根幹の部分は理解できていると思ったからです。 ○ 活動について理解を深められたし驚きが大きかったから。 ○ 受け入れ団体の実施事業が幅広く、一部の活動にしか携わっていないため上記回答とした。その他項目については受け入れ団体の方々との話の中で理解したと思う。 ○ 沢山話し合うことができたから。



Q 活動を終えて、各項目についてワカモノはどのくらい理解したと思いますか？

○ 熱心に質問をしてきていた。活動報告書を見て感心しました。 ○ 団体のパンフレットを作ってもらったので、団体について基本的には理解してもらおうことができたが、今回現場に立ち会ってもらえなかったため、その点が残念でした。 ○ あまり課題等については詳しくこちらも説明しませんが、ちょうど色々なイベントに参加できる時期だったので、目指していることは体験的に伝えることができた。



Q 受入を通して、団体の組織内にどのような変化がありましたか？

○ これまで手が届かなかったことに目を向けることができた。自分達の活動を客観視することができた。 ○ 障がいのある子たちの活動に親以外の若い人が興味を持ってくれ、支援してくれているということがすごくオープンな雰囲気になり、みな喜んでいました。 ○ SNSを活用した情報発信をお願いしましたが、写真の使い方や加工の仕方、撮影方法などワカモノの視点は大変勉強になりました。 ○ 高校生の元気で活発としたパワーで団体全体が明るくなった。高校生ならではの視点をたくさんもらった。また、大学生インターンが優しくサポートしてくれたり、大学生側に自覚と責任が芽生えた。

考察・まとめ

どのワカモノも、活動に参加していく中で地域課題や団体の活動についての意識が変化していったことが伺えます。団体についてどのくらい理解したかという質問に対して、ワカモノの回答では「理解した」の回答が多いこと比べ、団体の回答では「まあ理解した」「どちらともいえない」の割合が多いです。4ヶ月の活動では、部分的には理解しても団体の全体像を理解することは難しいのかもしれませんが、ワカモノの目標達成率は高く、定例会での活動報告や、他のワカモノとの交流によって、目標を意識しながら活動することができていたのではないかと推測します。また、団体にとっても、他のメンバーの意識が変わったりと、ワカモノが参加することで団体の活動にも良い変化が生まれています。

サポメン紹介

サポメン(サポートメンバー)とは、ワカモノの活動をサポートする人たちのことです！過去に、インターンシップを経験したOBOGたちが、企画運営に携わっています。ここでは今年度のメンバーを紹介をしています。SNSもサポメンが中心となって運営していますのでぜひご覧ください！

Twitter



Instagram



Kaneko Tomofumi
金子 知史

サポメンのリーダーを務めました。Covid-19の流行に悩まされましたが、ワカモノの参加があることでプロジェクトを無事に進めることができたと感じています。これからの生きる未来のワカモノの皆さん、ぜひご一読下さい。



Ojima Nana
小島 奈々

主に広報物のデザイン監修及び、定例会の企画や当日の進行などが円滑に進むよう緑の下の力持ち？担当でした。ワカモノにNPOって面白いんだぜ！と、選択肢を増やせるお手伝いができたらいいなと思いながら活動しています。



Kato Ryota
加藤 涼太

主に合宿の企画を担当しました。合宿は初めての企画で、場所、予算など0から様々なことを考えました。ワカモノと直接やり取りをして、不安や相談がないか聞き、少しでも不安が減って楽しく活動してもらえるよう心がけていました。



Jindo Natsumi
神藤 夏美

プログラムの企画を決めていく為の話し合いを頻繁に行いました。定例会ではディレクターや司会を勤め、他のサポメンと協力したことでプログラムを無事終えることができました！ワカモノに参加して良かったと思ってもらえていたら嬉しいです。



Nakamura Nagisa
中村 渚

主にSNSの運営を担当していました！このプログラムをわかりやすく、見て楽しいものにするかを意識していました。オンライン活動が多い中で、少しでも価値観について考えたり、実りある活動になるようなサポートを意識していました！



Kanomata Kazuki
鹿又 加寿起

プログラム立ち上げの話し合いやHP作成を中心に活動しました。以前ワカモノとして活動した経験を他の学生に伝えたいという思いが活動継続に繋がったと思っています。皆と同じ思いで一体感をもって動けたことはとてもやりがいでした。



Koyama Yuko
小山 優子

定例会の企画協力や当日のサポートを主にしていました。私は自分が1期生として活動し、その後もずっと関わっています。今年自分の経験を伝えることがワカモノにとって何かのヒントになれば...という想いで活動をサポートしてきました。



Sakai Sara
酒井 彩良

ワカモノ募集のチラシ作成や、合宿・定例会の企画運営をしました。ワカモノの成長は勿論ですが、サポメンにとっても挑戦の機会となっています。事業を通して、知識やスキルが身につくのと、何より人との繋がりが広がっていくのが嬉しいです^^



おわりに



プログラム統括
認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 理事長

てづか あけみ

手塚 明美

1998年NPO法の制定をきっかけに、NPO支援の在り方を柱に、情報収集と発信を進め、NPOを中心とした非営利組織のマネジメント支援、ソーシャルビジネスの起業支援、NPOと他セクターとの連携支援に取り組んでいる。

2021年度のプログラムが無事に終了しました。「地域つながる」をコンセプトに、本年度は、8名の「ワカモノ」が地元のNPO8団体の活動にインターンとして参画してきました。さらに8名のインターン卒業生のサポーターと共に、昨年度に続くコロナ禍での活動でしたが、それぞれに工夫を凝らし、元気に活動してきました。

本年度のキーワードは、「価値観」。コロナ対策においても「経済的な価値」と「社会的な価値」のバランスについていろいろと意見が飛び交っていますね。それによって、緊急事態宣言が出されたり、解除に向けた指標があったりなかったり。1990年代あたりから、生活スタイルの多様性が際立ってきたことにより、価値観の多様性が話題となり始めました。大量生産・大量消費を代表格にした「マス」の時代が終焉を迎えた頃のことです。本プログラムに参加したワカモノの皆さんが誕生する10年以上も前のこととなります。令和の時代になり、「価値観の違い」はごく一般的な認識となり、「価値観の違い」を受容することが社会生活を送るためには必要となってきました。そこで本年度は、「自分なりの価値観を育む」をキーワードにプログラムを構築しました。まず、「自分の価値観を押し付けない」ということを意識し、何回となくフリーディスカッションを開催し、参加者それぞれの「想い」を共有することから始めました。自分以外の人の話を聞いた後に、自分の意見を落ち着いて伝える。また、それぞれ

の譲れないところを理解することで、「ここは良いけど、これだけは気を付けてほしい」などといった多様な価値観に冷静に向き合う。そして歩み寄る。

それによって、「宿泊研修」や「ハイブリッド型報告会」など、例年にはない研修の果実が実りました。参加したワカモノはそれぞれの価値観を持って、本プログラムに応募し5ヶ月、目的の達成のために同じ空間を共有しました。学校生活もそうですが、社会には様々な目に見えない枠組みがあり、それを越えた交流を進めることは勇気が必要です。本プログラムを体験したことにより、見えてきたことは、社会の仕組みだけではなく自分自身の可能性ではないでしょうか。森の中には、大きな木も小さな木も地面を覆う草もあり、生きる拠点にしている動物もいます。視点を多角的にするだけでも価値観は変化します。自分が自分らしくあるためのほんのひと時の経験ですが、どこかでいつかお役に立つのではないかと信じています。

最後になりますが、本プログラムに直接参加協力していただいた皆様、温かいまなざしで見守ってくださった多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。引き続き本プログラムへのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

過去のプログラム

か の か じ じ じ

本プログラムは2014年度から始まり、これまでに100名以上のワカモノが活動してきました。2年目にはサポメンが結成され、3年目には高校生でも参加しやすいように活動時間を短くした高校生コースが生まれました。右の活動報告書は有志メンバーでゼロから制作しています。今年度は初の試みとして合宿を実施したように、今後も新しいことに挑戦していきます。



か つ じ じ じ じ じ

ワカモノ OBOG へのインタビュー !!



名前：小山 優子さん
団体名：藤沢市民まつり実行委員会
当時：大学3年生

お金では得られない価値がある

インターンでは、ご当地キャラを15体程の出演交渉から当日のアテンドまで行う企画などに携わりました。私は現在、中学校教員の傍ら、NPO活動にも参加しています。ボランティアに関わっているからこそ経験できることや新たな人とのつながりに「楽しさ」を感じますし、それらは絶対お金では得られない価値があると思っています。学生の頃を振り返ってみると、NPOに関わる方と積極的に話したり、活動にも積極的に取り組んだからこそチャンスを掴めたことが沢山ありました。これから参加するワカモノには、物事に対して受け身にならず、自分の意見や考えを持って活動してほしいです。恐れずにどんどん挑戦してください！



名前：丸山 凜子さん
団体名：(N) 鎌倉あそび基地
当時：高校1年生

無理です！と言える強さ

私は高校1年生でこのインターンに参加しました。当時は学校と家の往復で家族や先生以外に大人と関わりを持つ機会があまりありませんでした。そんな中でインターンを通して自分の力量不足で難しくても、改善策や今の自分に出来る策を提示し、自分の現時点での力量で打ち込むことををよしとし、認めていいのだ、と学びました。何か事を成す際に成長過程であることやまだ未熟であることは許されないと当時感じていたのですが、インターンを経験して肩の荷が降りたと同時に、無理です！とちゃんと伝えられる強さを得ることが出来ました。本当にインターンに参加して良かったです。

参加団体一覧 ※順不同。団体名称は当時の情報で掲載しています。

(認N) 地球市民 ACT かながわ /TPAK、(認N) WE21 ジャパン、(認N) ゆい、(N) 湘南市民メディアネットワーク、(N) まちづくりスポット茅ヶ崎、昔の遊びを伝える会、(N) ハーモニーインターナショナル、(N) 湘南スタイル、(N) 湘南遺産プロジェクト、(N) 湘南遊映座、(N) ドリームエナジープロジェクト、(N) 青少年サポート協会、湘南まちいくプロジェクト、(N) キッズコミュ、(N) 湘南 DV サポートセンター、藤沢市民まつり実行委員会、(N) ADRA Japan、(認N) 藤沢市民活動推進機構、シネコヤ、(N) REDS 湘南、(N) 西浜サーフライフセービングクラブ、(N) 横須賀創造空間、(N) NPO サポートちがさき、(N) 市民農園を拡げる会、(N) 鎌倉あそび基地、チャリティーサンタ湘南支部、辻堂ライフセービングクラブ、(N) 幼児武道教育振興会、ふじさわ救命普及推進会、(N) 地球市民友の会、(N) 湘南 NPO サポートセンター、(N) アズヴェール藤沢スポーツクラブ、(N) Nico's Company、障がいのアナ

編集後記

- 全体のコンセプト決めから細部のデザインまで、制作に携われて良かったです。とても充実していました！（山本 千晴）
- 同世代の仲間たちと協力して一つのものを作り上げるいい経験になりました。（大谷 脩太郎）
- 実は冊子のどこかに隠れミッソーがいます！...というのは嘘ですが、それくらいまなく見てほしいです！（酒井 彩良）
- 活動するのとならないのでは得られる経験が違います。参加しようか悩んでいるようなら是非やってみて欲しいです！（今泉 友里）
- 「何かを始めるのが怖い時、まさにそれが始める時だ」との名言があります。参加するときと貴重な経験をいただけます！（加藤 涼太）
- 報告書を読んで何か少しでもわくわくするものがあなたの心にあればぜひ参加してほしいです！（中村 渚）
- 1ページ1ページ時間をかけて何回も話し合ってきた報告書なので皆さんの心に残ってくれたら嬉しいです！（相原 美月）
- ワカモノがそれぞれ目標を持ち、活動に積極的に取り組む姿に目を通し、知っていただけると幸いです。（金子 知史）
- 読者の皆さんに何か引っ掛かりが残ったら嬉しいです。さらに次回の参加に繋がったらもっと嬉しいです！（小島 奈々）
- 本冊子も本プログラムも有志のメンバーと共に創っています。読者の皆さんの心に少しでも何かが残りますように。（西尾 愛）
- 1～8期生まで様々なメンバーたち自身で企画から制作まで担った報告書が完成！支えてくださる皆さまに感謝！（桜井 光）

協力者一覧

受入団体	一般社団法人 ソーシャルコーディネートかながわ	新林公園みどりの会
	NPO 法人 ドリームエナジープロジェクト	国際協力 NGO Act for Child
	NPO 法人 横浜市民アクト	NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ
	おととき♪	認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構
広報協力	神奈川大学 山岡 義卓先生	慶応義塾大学 櫻田 周三先生
	私立大学 柴田 匡啓先生	東海大学 藤巻 裕之先生
	日本大学 小谷 幸司先生	湘南学園中学校・高等学校 吉川 謙太郎先生

地域でつながるワカモノ×NPO インターンシッププログラム 2021 活動報告書

発行：2022年5月 編集責任：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 理事長 手塚 明美

事業担当：西尾 愛 桜井 光

制作協力：山本 千晴（進行管理） 相原 美月（進行補助） 大谷 脩太郎（グラフィックデザイン）
酒井 彩良（グラフィックデザイン） 今泉 友里（表紙デザイン） 中村 渚（取材・記事作成）
加藤 涼太（取材・記事作成） 金子 知史（文章執筆） 小島 奈々（デザイン監修）

発行所： 認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室
電話：0466-53-7366 ホームページ：http://f-npon.jp メール：npoipg@f-npon.jp

団体が持つ法人格は略称で表記しています。（N）...NPO 法人（認N）...認定 NPO 法人
本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。
商業目的による本書の情報の利用を禁じます。